

2023年5月7日 礼拝説教要旨

詩編講解説教147「主を畏れる人」

詩編147：1～11、ルカ12：28～32

第147編は冒頭「ハレルヤ。わたしたちの神をほめ歌うのはいかに喜ばしく、神への賛美はいかに美しく快いことか」（1節）と歌います。「喜ばしく」と訳された部分はトーブ（良い）という言葉です。この言葉は神さまが天地万物をお造りになられ、最後に「極めて良かった」（創世記1：31）と言われたところに使われています。まさしく神さまをほめたたえることにこの世界、人間の創造の目的がある。それが人間にとって最も良いことだと聖書は教えています。

ところが、この最も良い状態から人間は自ら外れてしまいました。本来の創造の目的から逸脱してしまいました。そこに聖書の伝える人間の罪があります。つまり神さまではなく自分をあがめるようになってしまったということです。アダムとエバは「神のようになれる」という誘惑に負けて木の実を食べてしまいました。自分を神にしたのです。その結果、神さまのもとを離れていきました。そしてこの罪に人間は支配されることとなります。カインは妬みから弟のアベルの命を奪います。神さまがお造りになられた命を人間が奪い支配してしまう。またバベルの塔の物語にいたっては、「天まで届く塔」を建てようとする人間の傲りが象徴的に表されています。この人間の傲りこそ、神さまを畏れることができなくなった表れであります。そこに人間の罪の本質があると理解してよいでしょう。

そのような人間の罪、傲りが今日で言えばロシアのウクライナ侵攻のような戦争という形で表されています。戦争はまさに神さまへの畏れを欠いた人間の傲りの最たるものです。そしてそれは人類を破滅へと導くのです。命が奪われ、自然が破壊され、人々の心は深く傷つき、この憎しみ、怒りはこれからも続くでしょう。人類は自らそういう破滅の道を突き進んでいます。そのことをイスラエルも経験しました。「主はエルサレムを再建しイスラエルの追いやられた人々を集めてくださる。打ち砕かれた心の人々を癒し、その傷を包んでくださる」（2～3節）この部分は明らかにバビロニア捕囚を背景にしていると考えられます。まさに他国の侵略によってイスラエルは滅ぼされました。そして国を追われた人々は各地に散らされて行きました。「追いやられた人々」（2節）という部分は、七十人訳聖書では離散を意味する「ディアスポラ」という言葉です。

けれどもそのように追いやられ、散らされた民が再び国に帰ることができた。この追いやられた人々を神さまはもう一度お集めになられます。そしてエルサレムを再建し国を建て直してくださいました。そのようにして打ち砕かれた人々の心癒し、その傷を包み込む、救いの御業が行われました。神さまはイスラエルをお見捨てにならずに、救いの契約を守り果たされます。そこに旧約聖書が伝える神さまの「慈しみ」（ヘセド）があります。

ただ147編で注目すべきことは、そのイスラエルを救われた神さまの救いの御業と並んでこの世界を造り、自然を造られた神さまの創造の御業が歌われていることです。「主は星に数を定め、それぞれに呼び名をお与えになる」（4節）「主は天を雲で覆い、大地のために雨を備え、山々に草を芽生えさせられる。獣や鳥のたぐいが求めて鳴けば、食べ物をお与えになる」（8～9節）イスラエルを救われた神さまは同時にこの世界の創造主であるということをこの詩編は

伝えようとしています。つまりこの147編は、この地上の歴史が天地創造の御業と無関係ではないこと、むしろその創造主のもとにすべての歴史を捉え直す視点をわたしたちに持たせようとしているのです。これは重要な点です。

わたしたちは、個々の歴史を導いておられるお方が創造主であり、天地万物をお造りになられたお方であることを忘れていません。小さな目の前の現実だけを見て喜んだり、悲しんだり、絶望したり一喜一憂している現実があります。でもそれらはすべて天地創造から終末の完成に至る神さまの壮大な救済の歴史の中に置かれています。旧約の時代の人々は自然を見てそのことを思い出しました。神さまは雨を降らせて大地を潤してくださいます。ちょうど今の時期は新緑の美しい時期です。阿蘇の山々が緑になって新しい命が芽生えているように、荒涼とした山々もまたやがて青草に覆われる。生き物たちにも誰が与えるわけでもなく食べ物が与えられる。天の数えきれない星の一つ一つを定めて、その動きを支配しておられる。わたしたちの小さな歩みもすべてそのような神さまの創造の御手の中にあるのです。

イスラエルはそのことを体験的に知りました。散らされ、追いやられても集められた。傷ついても癒された。神さまはその小さな民をお忘れにならず最後まで導いてくださいます。そしてその神さまの慈しみはイエス・キリストの救いに現されました。神さまをほめたたえることができなくなったわたしたちのために、その罪のためにイエス・キリストは十字架で死んでくださいました。そして三日目によみがえられて、神さまをほめたたえる新しい命を与えてくださいました。それによって破滅の道から救い出し、本来の創造の目的、神さまをほめたたえる人間へと新しく造り変えてくださったのです。わたしたちの個々の歩みはすべてこの壮大な救いの御業の中に置かれていることを忘れてはなりません。

今日はルカによる福音書を読みました。マタイの山上の説教にある「思いわずらうな」のルカ版です。「小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる」(ルカ12:32) わたしたちは神さまを畏れることで、この世の様々な恐れ、思い煩いから自由になります。すべては神さまの創造の目的に向かって導かれるのです。そのために神さまはイエス・キリストを与えてくださいました。何も恐れることはありません。大いなる神さまの御手の中にある安心を持ってこの週も歩み出していきましょう。

天の父よ。あなたへの畏れを欠いた傲慢なわたしたちをお赦してください。そしてそれゆえに罪の現実に支配され、思い煩う者であります。けれどもあなたはそのようなわたしたちのために御子をお与えになられ、その十字架によってわたしたちの傲りを打ち砕いてくださいました。そしてよみがえりの命によってあなたを畏れ、あなたをほめたたえる者としてくださいました。どうぞ創造主であるあなたがわたしたちを必ずそのように創造の目的に叶うように導かれることを信じて、希望を持って今週も歩ませてください。主の御名によって祈ります。アーメン。